

子宮頸がん予防ワクチン

ヒブワクチン

小児用肺炎球菌ワクチン

接種費用を助成します

■ 問合せ 保健福祉課 ☎47-8007

平成 23 年 2 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日までの間、**ワクチンの接種費用を全額助成**します。

助成の対象者は？

子宮頸がん予防ワクチン

町内の中学 1 年生から高校 1 年生までの女子

ヒブワクチン 小児用肺炎球菌ワクチン

町内の生後 2 カ月から 5 歳未満までの乳幼児

※それぞれのワクチンで、接種時期や接種回数
異なります。

お知らせはしてくれるの？

助成の対象となる方には通知します。ワクチンのことや接種可能な町の指定医療機関については、同封する説明書で確認してください。

助成の期間は？

平成 23 年 2 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日までの間に接種した場合が、助成の対象です。

助成金額は？

町の指定医療機関での接種料金の全額を助成します。したがって接種費用は無料となります。ただし、初診料や予防接種ができなかった場合の診察料は、助成の対象となりません。

予防接種を受ける際に必要なものは？

- 健康保険証 ●母子健康手帳
- ワクチンの予診票(対象者に郵送します。医療機関にも置いてあります。)

申込方法は？

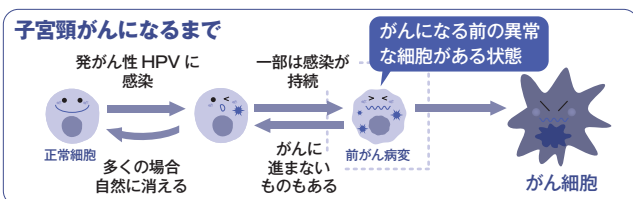
町の指定医療機関に予約してください。
なお、予防接種を受けた時は、母子健康手帳に接種済の証明をしてもらいましょう。

●子宮頸がん予防ワクチン

子宮頸がんは、女性特有のがんで、最近 20 代から 30 代に急増し、若い女性の発症率が増加傾向にあります。子宮頸がんは、がんによる死亡原因の第 3 位、女性特有のがんの中では乳がんに次いで第 2 位となっており、特に 20 代から 30 代の女性においては、発症するすべてのがんの中で第 1 位となっています。

最近の研究で、ほとんどの子宮頸がんは、性交渉によるヒトパピローマウイルス(HPV)の感染が原因であることが分かり、HPV ワクチンが開発され、その接種は子宮頸がんの予防に効果を発揮しています。

子宮頸がんは、初期段階ではほとんど無症状ですが、初期に発見できれば、多くの場合、子宮を温存することができます。発症予防には、子宮頸がん予防ワクチンの接種と定期的ながん検診を受けることが大切です。



※それぞれのワクチンは任意接種であり、義務ではありません。接種を希望する方は、予防効果や副作用、接種間隔等について十分ご理解のうえ、接種してください。

●ヒブワクチン 小児用肺炎球菌ワクチン

どちらのワクチンも、細菌性髄膜炎という重大な病気を予防することが目的です。特に 0 歳児から 1 歳児がかかることが多く、発熱、不機嫌、嘔吐など普通のかぜと見分けがつかない症状で始まり、進行が早く、早期診断・早期治療が困難な病気です。

この細菌性髄膜炎の予防には、それぞれのワクチン接種が最良の手段であることが分かっています。

Q ヒブ(Hib)ってなあに？

インフルエンザ b 型菌という細菌のこと。ただし、冬に大流行を起こすインフルエンザウイルスとは異なります。ヒブによる重症感染症には、細菌性髄膜炎や喉頭蓋炎などがあり、死亡または重い後遺症を残す場合があります。

Q 肺炎球菌ってなあに？

子どもの感染症の原因となる細菌のこと。まわりが硬い殻におおわれた菌で、人間の免疫が攻撃しにくい構造をしています。なかでも小さい子ども、特に赤ちゃんのうちは、まだこの細菌に対する抵抗力がありません。このため、細菌性髄膜炎など症状の重い病気を起こす場合があります。